

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年5月15日

【中間会計期間】 第37期中(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

【会社名】 株式会社NEXYZ.Group

【英訳名】 NEXYZ.Group Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 近藤 太香巳

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区桜丘町20番4号

【電話番号】 03 - 5459 - 7444

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 松井 康弘

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区桜丘町20番4号

【電話番号】 03 - 5459 - 7444

【事務連絡者氏名】 専務取締役管理本部長 松井 康弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 中間連結会計期間	第37期 中間連結会計期間	第36期
会計期間	自 2024年10月1日 至 2025年3月31日	自 2025年10月1日 至 2026年3月31日	自 2024年10月1日 至 2025年9月30日
売上高 (百万円)	12,612	13,615	28,433
経常利益 (百万円)	667	500	1,742
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 (百万円)	93	737	922
中間包括利益又は包括利益 (百万円)	843	603	3,548
純資産額 (百万円)	5,596	7,914	8,028
総資産額 (百万円)	18,447	23,045	24,387
1株当たり中間(当期)純利益金額 (円)	7.21	56.68	70.94
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	14.4	16.0	17.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	366	275	1,740
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	65	1,852	282
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	475	235	373
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 (百万円)	5,876	10,340	8,447

- (注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式が存在していないため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績

当中間連結会計期間における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善により景気は緩やかな回復傾向にありました。一方で、中東情勢等の影響による資源エネルギー価格や原材料価格の上昇、金融政策の動向や為替変動等による影響から、依然として先行きは不透明な状況で推移いたしました。GDP伸び率は、2025年10月～12月に前年同月比0.3%増となりました。消費者物価指数（生鮮食品除く）は、前年同月比1.6%～3.2%の間で推移しております。

このような状況の下、当社グループでは、今後も成長が見込まれる「ネクシーズZERO」、「アクセルジャパン」の拡大に特に注力しております。

当中間連結会計期間においては、エンベデッド・ファイナンス事業、メディア・プロモーション事業の両事業で、全国の拠点と地域金融機関との連携を深めて営業活動に注力しております。

これらの結果、売上高13,615百万円(前中間連結会計期間比8.0%増)、営業利益739百万円(前中間連結会計期間比8.4%増)、経常利益500百万円(前中間連結会計期間比25.0%減)となり、親会社株主に帰属する中間純利益は737百万円(前中間連結会計期間比685.8%増)となりました。

当中間連結会計期間における報告セグメントの概況は次のとおりであります。

##### [エンベデッド・ファイナンス事業]

エンベデッド・ファイナンス事業では、設置工事費用を含めた初期投資オールゼロで、顧客に最新の省エネルギー設備等を導入できる「ネクシーズZERO」の提供、利用者獲得業務及び省エネルギー設備等の販売を行っております。

当中間連結会計期間においては、金融機関からの案件紹介が着実に増加しており、過去最高の推移となっております。商材としては店舗施設のLED照明への切り替えの安定した需要に加えて、業務用空調の受注が引き続き増加傾向にあるほか、工期が長く納品まで時間がかかる一方で、契約金額が大きいキュービクル式高圧受電設備の受注も着実に増加しております。

これらの結果、エンベデッド・ファイナンス事業は、売上高11,100百万円(前中間連結会計期間比10.7%増)、セグメント利益649百万円(前中間連結会計期間比10.1%増)となりました。

##### [メディア・プロモーション事業]

メディア・プロモーション事業では、企業プロモーション支援を目的として、インターネットを主とした各種サービスを提供しております。

当中間連結会計期間においては、タレントを起用した企業プロモーション支援プロジェクト「アクセルジャパン」において、金融機関パートナーとの連携が成果を出し始めており、新規契約の獲得が順調に回復しました。同時に、顧客満足度向上への丁寧なサポートにより、更新売上も着実に増加しております。そのほか、電子雑誌やECサポート等各種ソリューション業務においては、ECサポート関連売上は堅調に推移し、電子雑誌「旅色」の強みを活かした新たな取り組みとして、旅行プラン記事や旅行記事から直接宿泊予約が可能となる新機能の提供を開始しております。

これらの結果、メディア・プロモーション事業は、売上高2,469百万円(前中間連結会計期間比4.6%減)、セグメント利益545百万円(前中間連結会計期間比3.8%増)となりました。

[ その他事業 ]

その他事業では、新たに法人向けグループウェアサービスの提供等を行っております。当中間連結会計期間においては、同サービスの新規顧客の契約が増加しております。

これらの結果、その他事業は、売上高70百万円(前中間連結会計期間比465.3%増)、セグメント利益5百万円(前中間連結会計期間比31.5%減)となりました。

財政状態

当中間連結会計期間末の総資産は23,045百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,342百万円の減少となりました。

(流動資産)

流動資産は17,749百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,834百万円の増加となりました。これは主に、現金及び預金が1,892百万円増加したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は5,296百万円となり、前連結会計年度末に比べて3,177百万円の減少となりました。これは主に投資有価証券が3,164百万円減少したことによるものであります。

(流動負債)

流動負債は11,044百万円となり、前連結会計年度末に比べて18百万円の減少となりました。これは主に、未払金が249百万円増加した一方で、解約調整引当金が324百万円減少したことによるものであります。

(固定負債)

固定負債は4,087百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,209百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金が458百万円、固定負債のその他が751百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産合計は7,914百万円となり、前連結会計年度末に比べて113百万円の減少となりました。これは主に、非支配株主持分が532百万円、利益剰余金が343百万円増加した一方で、その他有価証券評価差額金が1,165百万円減少したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」)の中間期末残高は10,340百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,893百万円の増加となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は275百万円(前中間連結会計期間は366百万円の収入)となりました。これは主に、投資有価証券売却益2,015百万円、売上債権の増加額778百万円があった一方で、税金等調整前中間純利益2,515百万円、貸倒引当金の増加額499百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は1,852百万円(前中間連結会計期間は65百万円の支出)となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出が58百万円があった一方で、投資有価証券の売却による収入2,015百万円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は235百万円(前中間連結会計期間は475百万円の支出)となりました。これは主に、非支配株主からの払込みによる収入856百万円があった一方で、長期借入金の返済による支出995百万円、非支配株主への配当金の支払額104百万円があったことによるものであります。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の対処すべき課題

当中間連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	53,654,560
計	53,654,560

###### 【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2026年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2026年5月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,471,240	13,471,240	東京証券取引所 スタンダード市場	権利内容に何ら限定のない当社において標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	13,471,240	13,471,240		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2025年10月1日～ 2026年3月31日		13,471,240		100		100

## (5) 【大株主の状況】

2026年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
近藤 太香巳	東京都渋谷区	3,287,580	25.27
株式会社近藤太香巳事務所	東京都渋谷区桜丘町20 - 4 ネクシーズスクエアビル	1,275,500	9.81
NEXYZ.従業員持株会	東京都渋谷区桜丘町20 - 4 ネクシーズスクエアビル	1,067,600	8.21
伊藤 智之	大阪府大阪市北区	796,800	6.13
一般社団法人HDP	東京都渋谷区桜丘町20 - 4 ネクシーズスクエアビル	700,000	5.38
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	502,937	3.87
ベル投資事業有限責任組合1	東京都港区芝公園2丁目9番3号 芝ファールビルディング	318,500	2.45
渡辺 崇	東京都港区	265,400	2.04
大前 成平	東京都目黒区	226,930	1.74
清板 大亮	東京都港区	160,500	1.23
計		8,601,747	66.13

(注) 1. 上記のほか、当社所有の自己株式463,387株(3.44%)があります。

2. 上記大株主の状況は、株主名簿上の所有株式数に基づき記載しております。

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2026年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 463,300		権利内容に何ら限定のない当社において標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,862,800	128,628	同上
単元未満株式	普通株式 145,140		同上
発行済株式総数	13,471,240		
総株主の議決権		128,628	

(注) 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式が87株及び証券保管振替機構名義の株式が50株含まれております。

## 【自己株式等】

2026年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社NEXYZ.Group	東京都渋谷区桜丘町20-4	463,300	0	463,300	3.44
計		463,300	0	463,300	3.44

(注) 上記のほか、当社は単元未満の自己株式を87株保有しております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間(2025年10月1日から2026年3月31日まで)に係る中間連結財務諸表について、有限責任パートナーズ総合監査法人による期中レビューを受けております。

## 1 【中間連結財務諸表】

## (1) 【中間連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,447	10,340
受取手形及び売掛金	2,890	3,668
リース債権	3,436	2,721
商品	486	765
未収入金	556	374
その他	1,107	1,199
貸倒引当金	1,010	1,321
流動資産合計	15,914	17,749
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	917	918
工具、器具及び備品（純額）	103	115
土地	53	53
その他（純額）	4	5
有形固定資産合計	1,080	1,093
無形固定資産		
ソフトウェア	121	129
その他	0	0
無形固定資産合計	121	129
投資その他の資産		
投資有価証券	5,832	2,667
敷金及び保証金	617	589
繰延税金資産	164	145
その他	949	1,151
貸倒引当金	291	480
投資その他の資産合計	7,272	4,073
固定資産合計	8,473	5,296
資産合計	24,387	23,045

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,446	2,245
短期借入金	1,100	1,100
1年内返済予定の長期借入金	1,812	1,775
未払金	665	914
未払法人税等	476	651
解約調整引当金	2,977	2,653
賞与引当金	415	236
その他	1,168	1,466
流動負債合計	11,062	11,044
固定負債		
長期借入金	3,907	3,449
その他	1,389	637
固定負債合計	5,297	4,087
負債合計	16,359	15,131
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	1,001	1,176
利益剰余金	2,170	2,513
自己株式	900	900
株主資本合計	2,371	2,889
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,955	789
為替換算調整勘定	2	3
その他の包括利益累計額合計	1,958	792
非支配株主持分	3,699	4,231
純資産合計	8,028	7,914
負債純資産合計	24,387	23,045

## (2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

## 【中間連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	12,612	13,615
売上原価	6,316	7,144
売上総利益	6,295	6,471
販売費及び一般管理費	5,613	5,731
営業利益	681	739
営業外収益		
受取利息	2	7
受取給付金	5	-
その他	11	15
営業外収益合計	19	22
営業外費用		
支払利息	22	36
株式交付費	-	30
持分法による投資損失	-	165
その他	11	28
営業外費用合計	34	261
経常利益	667	500
特別利益		
投資有価証券売却益	-	2,015
特別利益合計	-	2,015
特別損失		
抱合せ株式消滅差損	6	-
特別損失合計	6	-
税金等調整前中間純利益	660	2,515
法人税、住民税及び事業税	120	621
法人税等調整額	263	254
法人税等合計	384	876
中間純利益	276	1,639
非支配株主に帰属する中間純利益	182	902
親会社株主に帰属する中間純利益	93	737

## 【中間連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
中間純利益	276	1,639
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	567	2,244
為替換算調整勘定	0	1
その他の包括利益合計	567	2,243
中間包括利益	843	603
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	391	428
非支配株主に係る中間包括利益	451	175

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	660	2,515
減価償却費及びその他の償却費	59	69
解約調整引当金の増減額（は減少）	97	324
賞与引当金の増減額（は減少）	275	179
貸倒引当金の増減額（は減少）	620	499
受取利息及び受取配当金	4	8
支払利息	22	36
投資有価証券売却損益（は益）	-	2,015
売上債権の増減額（は増加）	138	778
リース債権の増減額（は増加）	403	714
棚卸資産の増減額（は増加）	74	275
立替金の増減額（は増加）	23	150
仕入債務の増減額（は減少）	207	200
契約負債の増減額（は減少）	230	486
未払金の増減額（は減少）	48	228
未払消費税等の増減額（は減少）	51	83
預り金の増減額（は減少）	15	51
その他	510	190
小計	654	776
利息及び配当金の受取額	4	8
利息の支払額	22	36
法人税等の支払額又は還付額（は支払）	269	472
営業活動によるキャッシュ・フロー	366	275
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	1	58
投資有価証券の売却による収入	-	2,015
有形固定資産の取得による支出	29	52
無形固定資産の取得による支出	18	33
敷金及び保証金の差入による支出	11	13
敷金及び保証金の回収による収入	14	37
その他	17	42
投資活動によるキャッシュ・フロー	65	1,852
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	865	500
長期借入金の返済による支出	859	995
配当金の支払額	259	389
非支配株主からの払込みによる収入	-	856
非支配株主への配当金の支払額	-	104
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	204	5
その他	16	96
財務活動によるキャッシュ・フロー	475	235
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	174	1,893
現金及び現金同等物の期首残高	5,849	8,447
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	200	-
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,876	10,340

【注記事項】

(中間連結貸借対照表関係)

保証債務

次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
株式会社ポディアーク・ジャパン	88百万円	109百万円

債権流動化に伴う買戻義務

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
債権流動化に伴う買戻義務	43,414百万円	45,742百万円

(中間連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
給料及び手当	1,889百万円	2,030百万円
賃借料	373 "	391 "
減価償却費	35 "	44 "
貸倒引当金繰入額	896 "	1,061 "
解約調整引当金繰入額	97 "	324 "
賞与引当金繰入額	183 "	236 "

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
現金及び預金	5,831百万円	10,340百万円
預け金(流動資産その他)	44百万円	0百万円
現金及び現金同等物	5,876百万円	10,340百万円

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年12月20日 定時株主総会	普通株式	260	20	2024年9月30日	2024年12月23日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2025年12月19日 定時株主総会	普通株式	390	30	2025年9月30日	2025年12月22日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンベデ ッド・ファイ ナンス事業	メディア・ プロモー ション事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	10,016	2,582	12,599	12	12,612	-	12,612
セグメント間の内部売上高 又は振替高	12	5	18	-	18	18	-
計	10,029	2,588	12,617	12	12,630	18	12,612
セグメント利益	590	525	1,115	8	1,124	442	681

(注) 1. セグメント利益の調整額 442百万円には、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用が含まれております。

なお、全社収益は主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用及び各報告セグメントに配分していない人件費等であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	合計	調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	エンベデ ッド・ファイ ナンス事業	メディア・ プロモー ション事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,091	2,457	13,548	66	13,615	-	13,615
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9	11	21	3	24	24	-
計	11,100	2,469	13,570	70	13,640	24	13,615
セグメント利益	649	545	1,195	5	1,200	461	739

(注) 1. セグメント利益の調整額 461百万円には、各報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用が含まれております。

なお、全社収益は主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用及び各報告セグメントに配分していない人件費等であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

記載すべき重要な事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	エンベデッド・ ファイナンス 事業	メディア・ プロモーション 事業	計		
売上高					
商品販売	1,086	-	1,086	-	1,086
電子雑誌	-	1,016	1,016	-	1,016
ソリューション	-	587	587	-	587
アクセルジャパン	-	969	969	-	969
その他	6	8	14	12	26
顧客との契約から生じる収益	1,092	2,582	3,675	12	3,688
その他の収益(注2)	8,924	-	8,924	-	8,924
外部顧客への売上高	10,016	2,582	12,599	12	12,612

(注) 1. 「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントを含んでおります。

2. その他の収益は、収益認識会計基準等の適用されないネクシーズZEROの提供により生じた収益等であり  
ます。

当中間連結会計期間(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計
	エンベデッド・ ファイナンス 事業	メディア・ プロモーション 事業	計		
売上高					
商品販売	2,068	-	2,068	-	2,068
電子雑誌	-	958	958	-	958
ソリューション	-	389	389	-	389
アクセルジャパン	-	1,106	1,106	-	1,106
その他	22	3	26	66	93
顧客との契約から生じる収益	2,091	2,457	4,548	66	4,615
その他の収益(注2)	9,000	-	9,000	-	9,000
外部顧客への売上高	11,091	2,457	13,548	66	13,615

(注) 1. 「その他」区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントを含んでおります。

2. その他の収益は、収益認識会計基準等の適用されないネクシーズZEROの提供により生じた収益等であり  
ます。

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
1株当たり中間純利益金額	7円21銭	56円68銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益金額	93	737
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益金額	93	737
普通株式の期中平均株式数(株)	13,008,820	13,007,955
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり中間純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年5月15日

株式会社NEXYZ Group  
取締役会 御中

有限責任パートナーズ総合監査法人

東京都中央区

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高橋篤史

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 藤原夏代

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社NEXYZ Groupの2025年10月1日から2026年9月30日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2025年10月1日から2026年3月31日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社NEXYZ Group及び連結子会社の2026年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 中間連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは期中レビューの対象には含まれていません。